

「なりたい自分になる」ために ～ポジティブ行動支援の（PBS）の先に見える学力向上～

夜久野学園 福知山市立夜久野小学校
福知山市立夜久野中学校

1 研究目的

あらゆる教育活動でポジティブ行動支援（PBS：Positive Behavior Support）の視点を取り入れた手立てを工夫し、児童生徒の自己肯定感の向上や学級内の好ましい人間関係の構築を図ることにより、児童生徒が確かな学力の獲得に向けて主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるようにする。

2 具体的取組

- (1) 講習 「ペップトーク講習会」全2回【4月28日（月）、8月21日（木）】
講師 大阪市立住吉小学校 教諭 兼松 朋子 様
- (2) 講義 「ポジティブ行動支援（PBS）を取り入れた学習指導」【11月27日（木）】
講師 京都教育大学 教育学部 発達障害学科 准教授 佐藤 美幸 様

- (3) 授業研究会（事後の研究協議）各学期1回
第1回 中学校2年理科【7月16日（水）】
第2回 小学校5年算数【12月3日（水）】
第3回 小学校4年算数【1月27日（火）】



- (4) 特別活動「アドジャンタイム」

安心して学べる集団作りを進めるため、隔週月曜日の給食後10分間、自分の思いを発信したり、他者の考えを肯定的に受け止めたりするコミュニケーション活動に全校で取り組む。

3 研究成果

- 全児童生徒の95%以上が、「学級の仲間は自分のことを分かってくれている」や「先生は自分のことを分かってくれている」と2学期末アンケートに回答しており、特に心理的安全性の確保について成果が見られた。
- 小学校5・6年生及び中学校1・2年生では、令和7年12月実施のベネッセ総合学力調査の結果が、国語と算数・数学のいずれも全国の平均正答率を上回る結果となった。
- 2学期末に実施した教員対象アンケートでは、ほぼ全員が『PBSの視点を取り入れた手立てを行う際に「ペップトーク」を意識している』と回答した。

○ 昨年度作成した「ポジティブ行動マトリクス」を主体的・対話的で深い学びの実現を目指した指標へと改善を図り、各教科等の授業において「インプット→アウトプット→フィードバック」という「夜久野式学習過程」を設定したうえで、PBSの視点を取り入れた手立てについて全教職員で共通確認を行うことができた。

ポジティブ行動マトリクス 夜久野学園 2026

	学習に向かう心構え (学習規律)	対話的な学び		学び方
		話す	聞く	
前期	①チャイムや合図で姿勢を整える。 ②机脚をそろえて、まっすぐ座り、机の上の正しい位置に教科書、ノート（筆箱、タブレット）を置く。 ③学習の始めと終わりのあいさつをしつかりとする。	①自分の思いを自分の言葉で伝える。 ②聴いている人に届く声で話す。 ③最後まではっきり話す。	①相手（先生や友達など）の方に向けて目を見て聞く。 ②相手（先生や友達など）の目を見て最後まで話を聞く。 ③うなずきながら聞く。	①今日のためを理解して学習を始める。 ②学習課題や疑問に対する自分の考えをもつ。 ③課題を最後まで取り取り組む。 ④大事な点を整理してノートにまとめる。 ⑤できたことやわかったことを振り返る。
中期	①休み時間に次の授業の準備をする。 ②始業前に整席し、授業に備える。 ③学習の始めと終わりのあいさつをしつかりとする。	①自分の考えをもって、自分の言葉で伝える。 ②聴くに応じた表情で、聞いている人と目を合わせながら、相手に伝えるように話す。 ③最後まで丁寧に話す。	①相手（先生や友達など）に目を見て最後まで話を聞く。 ②友達の話と自分の考えを比べながら聞く。 ③相づちをうったり、反応したりしながら聞く。	①今日のためを理解して学習に取り組む。 ②学習課題や疑問に対する自分の考えをもつ。 ③課題を最後まで丁寧にやりきる。 ④大事な点を整理してノートにまとめる。 ⑤今日のためを理解して振り返りをして、次の学習に生かす。
後期	①休み時間に次の授業の準備をする。 ②時間を意識して互いに声をかけ合うなど、自律して行動する。 ③学習の始めと終わりのあいさつをしつかりとする。	①自分の考えを理論立てて具体的に説明する。 ②聴くに応じた表現で、相手に伝えるように話す。 ③発言内容に責任をもって話す。	①先生の指示や話を正しく理解して、自ら学習活動に取り組む。 ②相手の話を共感的に受け止める。 ③疑問に思ったことは進んで質問し、考えを深める。	①今日の学習の振り返りをして、自分の考えを積極的に伝えたり議論したりして、考えを深める。 ②要点などを整理し、自分にとってわかりやすいノートづくりをする。 ③計画的に課題に取り組め、期限内に提出する。 ④本時のためや単元の目標に対する振り返りから、自分の考えの改善や成長に気付く。

4 次年度への課題

- ▲ 全ての児童生徒が、「学級の中で自分の思いを安心して発言することができる」や「苦手なことにも逃げずに挑戦している」と答えられるよう、子どもたちが自尊感情を高めることができるように教員が言葉かけを工夫するなど、さらなる支援の充実が必要である。
- ▲ 一層の学力向上のためには、各教科等で必要な資質・能力が身に付くような手立てをPBSの視点を取り入れて具体的に行い、児童生徒自らが望ましい学びを実現できるようにする。